

会 議 録

<開催日>平成 21 年 8 月 10 日 (月) <時 間> 9 : 30~12 : 00 <場 所>岸和田市職員会館 3 階会議室	報告者 浅田
---	-----------

<名 称>平成 21 年度第 2 回岸和田市協働のまちづくり推進委員会

<出席者> ○は出席、■は欠席

松端	上原	室田	米川	深野	中野	稲富	中川	和田	上野	泉原	西川	乙馬	荻野	白木	神谷

事務局) 西川企画課長、梶野参事、浅田、陣川

<議 題>

- 1、支援制度について
- 2、市民活動サポートセンター構想について
- 3、その他

<概 要>

1、支援制度について

支援制度については、事業化するための働きかけとして市長説明を行った。今回は、制度の必要性・背景・効果及び制度概要について説明し、市長からは補助金改革との調整、地区市民協議会活動との違いについてなど質問を受けた。

今後、補助金改革については動向を見守りつつ、地区市民協議会については活動を整理した上で、他市の事例等も交え再度説明していきたいと考えている。

【質疑応答】

会 長：市長説明を受けて、事業化の見通しは如何なものか。

事務局：補助金改革とセットで進めていかなければ難しい。

会 長：この制度は、効果や実態が見えにくいという弱点がある。しかし、財源の弱い市民活動団体をサポートすることで、地域活性化のためのカンフル剤的役割が期待できる。また、時代は、地方分権から地域分権へ進行しており、市民自身が効果や適正をチェックしていかなければならない。そのような意味でもこの制度の果たす役割は大きい。

事務局：予算要求時まで、ねばり強く説明していきたい。

2、市民サポートセンター構想について

昨年度よりサポートセンターについて検討しているところである。具体的な構想を策定する前に、必要性や施設構想策定体制などについて検討していきたい。

前回の会議で意見のあったセンターの果たすべき役割と、目的及び何を目指していくのか（岸和田の将来像）について議論したい。

グループワークの結果については、別添資料を参照。

【意見交換】

委 員：今の状態では、市民活動団体同士が横の連携を結べない。また、サポートセンターを設置するのであれば、予算の配分権を移譲するべきである。さらに、安全で清潔な場というイメージを全面に出し、高校生ぐらいの若い世代も利用する施設になってほしい。

委 員：若い世代に関心を持ってもらうには、文化祭を一緒にやるなど参加させるだけでなく、企画段階から関わらせるなど工夫が必要である。また、学生が市民活動に関わることは、若い世

代が社会とつながるきっかけになる。

委員：印刷などを行うワークスペースは必要である。サポートセンターは、行政と市民のつなぎ役を担ってほしい。市民がたらい回しにならないよう、多様な活動をカバーできる場所となることを望む。

会長：現在の財政状況では、サポートセンターを新設するのは難しいと考えられる。小学校などの空き教室を利用できないか。

事務局：小学校の教室は、全て何らかの形で利用されているときいている。企画課としては、既存の施設の有効活用という視点でサポートセンターの設置を考えている。

委員：今の時代性からいって、駐車場の確保は必要である。

委員：サポートセンターに期待する役割は、ソフト部分が大半である。現在のような財政状況でもできるところがあるのではないか。

委員：サポートセンターにかかる人件費が捻出できないのであれば、ボランティアアドバイザーの活用など、費用がかからない方法を検討していかなければならない。

会長：部分的であってもサポートセンター機能を実現させることは有用である。今後、意見のあったソフト部分を実行するための方策を検討してはどうか。

3、その他

情報提供

- ・ ボランティアサロンの案内
- ・ 府の「オンリーワン商店街創出事業」に蛸地蔵商店街が選定
- ・ 蛸地蔵商店街で8月総選挙にかかる投票率アップ作戦を実施
- ・ 事業者バンク制度マッチング成立（生涯学習課—さくらや・いずはら集配専門クリーニング）

次回以降の日程

11月10日（月）9：30～12：30

2月9日（月）9：30～12：30

開催場所は未定（事前に案内します）